

台湾大学生物資源農学院国際農業教育学術交流センターが実施するサマープログラム参加学生募集

2019年6月～8月に実施される上記プログラム参加者を募集します。農学部学生及び農学生命科学研究科大学院学生が対象です。

プログラムには BACT(Biodiversity, Agriculture, and Culture of Taiwan Summer Program)、及び、LRWI(Lab Research Work and Internship)があり、BACTのみ、又は、BACTとLRWIの組み合わせで参加することもできます。LRWIのみの参加は出来ません。

学部学生1名、大学院学生1名、計2名について、プログラム参加費用を農学生命科学研究科・農学部が支援します(渡航費等は自己負担。詳細は下記【研究科・学部からの支援内容】を参照)。

【募集人数】

学部学生1名、大学院学生1名(正規課程学生を対象とする)

留学生も申請できますが、台湾大学側の希望により、選考にあたっては、日本人学生が優先されます。

【サマープログラム日程】詳細は別紙参照

BACT 2019年6月29日(土)～7月28日(日)

LRWI 2019年7月28日(日)～8月25日(日)

【研究科・学部からの支援内容】

BACT 申請費9,000台湾ドル及びプログラム参加費66,000台湾ドルを支援

※プログラム参加費には、教材、プログラムTシャツ及びバッグ、全ての宿泊費、光熱水料のうち定額分、食費のうち5分の3、台湾国内の移動交通費を含み、その他は含まれない。往復航空券代や一部食費等は自己負担。

LRWI プログラム参加費12,000台湾ドルを支援

※プログラム参加費には、宿泊料(部屋代)及び研究室における資料を含み、その他は含まれない。宿泊料を除く生活費(食費や交通費等)は自己負担。

【応募方法】

1月31日(木)17:00までに、下記(※)より申請書をダウンロードし、申請書及び申請書に指定されている証明書(全て紙媒体)を農学部3号館1階学生サービスセンター国際学務支援チームへ提出。

※詳細のプログラム及び申請書等はこちら。

<https://webfs.adm.u-tokyo.ac.jp/public/AN8ogAzIS80Aa6sBNfRn2QVeDdE7Dz4w8cEQYh7hOe9a>

申請書類のうち、「Purpose of applying for the BACT program」は、MS WORD ファイル等で別紙として作成し申請書に添付しても結構です。

【選考方法】

書類審査及び英語面接を行い、学部学生1名、大学院学生1名を選出します。

英語面接の日時(2月～3月を予定)は追ってお知らせします。

【その他留意事項等】

(1) BACT及びLRWIプログラム参加学生への支援は、本研究科・学部が中心となって推進している東京大学と台湾大学との戦略的パートナーシップ構築プロジェクトの一部として行うものです。採択された学生には、シンポジウム等への参加や報告書の作成等、同プロジェクトへの協力が求められることがあります。

(2) 本プログラムは、国際交流協定に基づく留学プログラムですので、参加にあたっては本学の留学保険(「付帯海学」)や危機管理サービスの対象になります。「付帯海学」等については、こちらを参照してください。

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/cstudents/FutaiKaigaku20180703.pdf> (本研究科ウェブサイト「在学生の方へ」「お知らせ」掲載の「平成30年7月3日改正『海外実地研究並びに留学プログラム期間中の留学保険等の加入について』)。※内容は随時更新されますので注意してください。

(3) 台湾大学生物資源農学院国際農業教育興学学術交流センターウェブサイト

http://oiasystem.ntu.edu.tw/summer/course/index.detail/season/2/course_sn/146/intro/1227Date6/29SAT6/30SUNDuration%E2%96%A0BACT:Jun.29toJul.28

(4) 本プログラムによる単位の取扱については、事前に教務課へ相談すること。

問い合わせ：教務課国際学務支援チーム 山本（内線 20583）

～2018年度参加者の声～

K・Tさん(獣医・学部5年生)

一言で言うと、人生観が変わった一か月でした。

このプログラムを通して台湾はもちろん、様々な国の学生と交流ができ、日本とは全く違う考え方や価値観を肌で感じることができました。

私は留学経験がありませんでしたが、台湾は非常に親日国でなじみ易かったです。(漢字の意味が分かることもアドバンテージになります！)

留学を考えている方にはぜひおすすめしたいプログラムです。

H・Hさん(応用生命化学・修士2年生)

登山や夜間の生物観察など、台湾の自然に触れ合う機会が数多くあった。

自分の英語は未熟なものだったが、各国の学生と共に過ごす中で同じものを見て同じ感情を抱いたり、違う見方をしたり、いろいろな気づきを得ることができた。

真面目なディスカッションもあれば、くだけた雰囲気遊ぶことも多く、最後には学生同士が非常に仲良くなり、帰国後も続く交流を生むことができた。

台湾大学のスケールに圧倒されただけでなく、自然の豊かさやお世話になった先生方・学生の皆さんに非常に親切にいただいたことなど、忘れられない思い出がたくさんできた。